

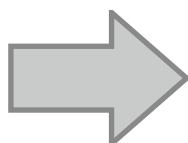
ハリマ化成の設備が化学遺産に認定!

ハリマ化成グループ（株）の子会社、ハリマ化成（株）加古川製造所にあるトール油蒸留パイロットプラントが、2025年2月に国内最大の化学学会（公社）日本化学会により化学遺産に認定されました。化学遺産は、日本の化学技術の発展における歴史資料の中でも特に貴重なものを認定するものです。

トール油蒸留パイロットプラントは、同社がトール油事業に進出するにあたり、実プラント設計のためのデータ収集を目的に、1957年に建設されました。その後、6か月間の試験運転を繰り返して得たデータをもとに、1958年10月に国内初のトール油精留プラントが完成しました。



1957年建設 パイロットプラント



2012年移設 パイロットプラント記念碑

近年、世界的にSDGsへの意識が高まり、環境を重視した製品が求められていますが、同社は石油化学由来の製品が全盛期を迎えていた時代にも天然資源にこだわり、紙の原料であるパルプを製造する際に発生する粗トール油の研究開発に取り組み、トール油精留プラントを建設しました。長年松から得られる有用物質を原料にした製品で人々のくらしを支えてきましたが、それはパイロットプラントがあってこそ実現できました。現在も記念碑として加古川製造所内に残されており、工場見学に訪れた業界関係者や一般見学者に紹介されています。



トール油精留プラント（2025年現在）

（写真提供：ハリマ化成(株)）